

公園のタコ お色直し

ほのぼの@タウン



滑り台の落書きに、ピンク色のペンキを塗る「落書き戦隊ケスンジャー」の隊員たち

◆川崎市宮前区 3月30日、菅生3丁目の鷲ヶ峰公園(通称タコ公園)に「落書き戦隊ケスンジャー」が集まった。隊員ら11人が、タコの形をした滑り台の落書きにペンキを塗る作業を行い、タコはきれいなピンク色に化粧直しされた。

ケスンジャーは2005年9月、当時菅生小学校6年2組だった子供たちが作った。「公園の遊具に友達が悪口が落書きされ、それを見た男子が『消そう』と呼びかけたのがきっかけだ

った」と、隊員の木下涼穂さん(15)。

消した翌週にすぐ落書きされたこともあったが、地道に消し続けた。隊員は次第に、どこに行っても、落書きが気になるようになり、菅生中学校に進んでも続けることにした。

菅生中では、菅生小旧6年2組の子供たち以外にも加わり、保護者も責任者になって活動を支えた。隊員は入れ替わり自由で常時、15人前後おり、月1度、部活が休みの日に、学区内の落書き消しを行ってきた。

ペンキやローラーなどは極力、自力でまかなっており、「資金集めにバザーを行ったり、行政の補助金を獲得したり、皆で協力してきた」と責任者の佐藤利枝さん(37)。「子供たちに勇気づけられた。落書きも減っている」といい、保護者

の一人、湯浅直子さん(44)は「子供たちは自分たちが住む街をきれいにしよう」と、自然体でやっている」と話す。

隊員たちはこの春、菅生中を巣立ち、各自の進路も様々だが、ケスンジャーは今後も解散しないという。(小川良子)